

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドン・キホーテ」に出てくるドン・キホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ！」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。今後もこれを信念として一步一步参ります。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

認定NPO・国際NGO

ロシナンテス

ANNUAL REPORT 2016.4-2017.3



アフリカ北部の国、スーダン。面積は188万km²でアフリカ大陸の国家の中で3番目に大きく、人口は約4,000万人。気候は乾燥していて、非常に暑さが厳しいです。文化的にはイスラム教国で、言語はアラビア語が公用語ですが、英語もある程度は通用します。

下の表のように、日本とスーダンでは国民の豊かさや健康の面で大きな差があります。

日本とスーダンの比較

	日 本	スーダン
人 口	1億2,699万人(2016年)	3,958万人(2016年)
面 積	38万km ²	188万km ²
国民1人あたり国内総生産	38,895ドル(2016年)	2,415ドル(2016年)
出生時平均余命(平均寿命)	83.8年(2015年)	63.7年(2015年)
5歳未満小児死亡率	2.7/1000出生(2015年)	70.1/1000出生(2015年)

(出典: The World Bank Group, DataBank)

「医」を届ける。

私たちの考える「医」は、一般的な“医療”を含みますが、それだけに留まりません。

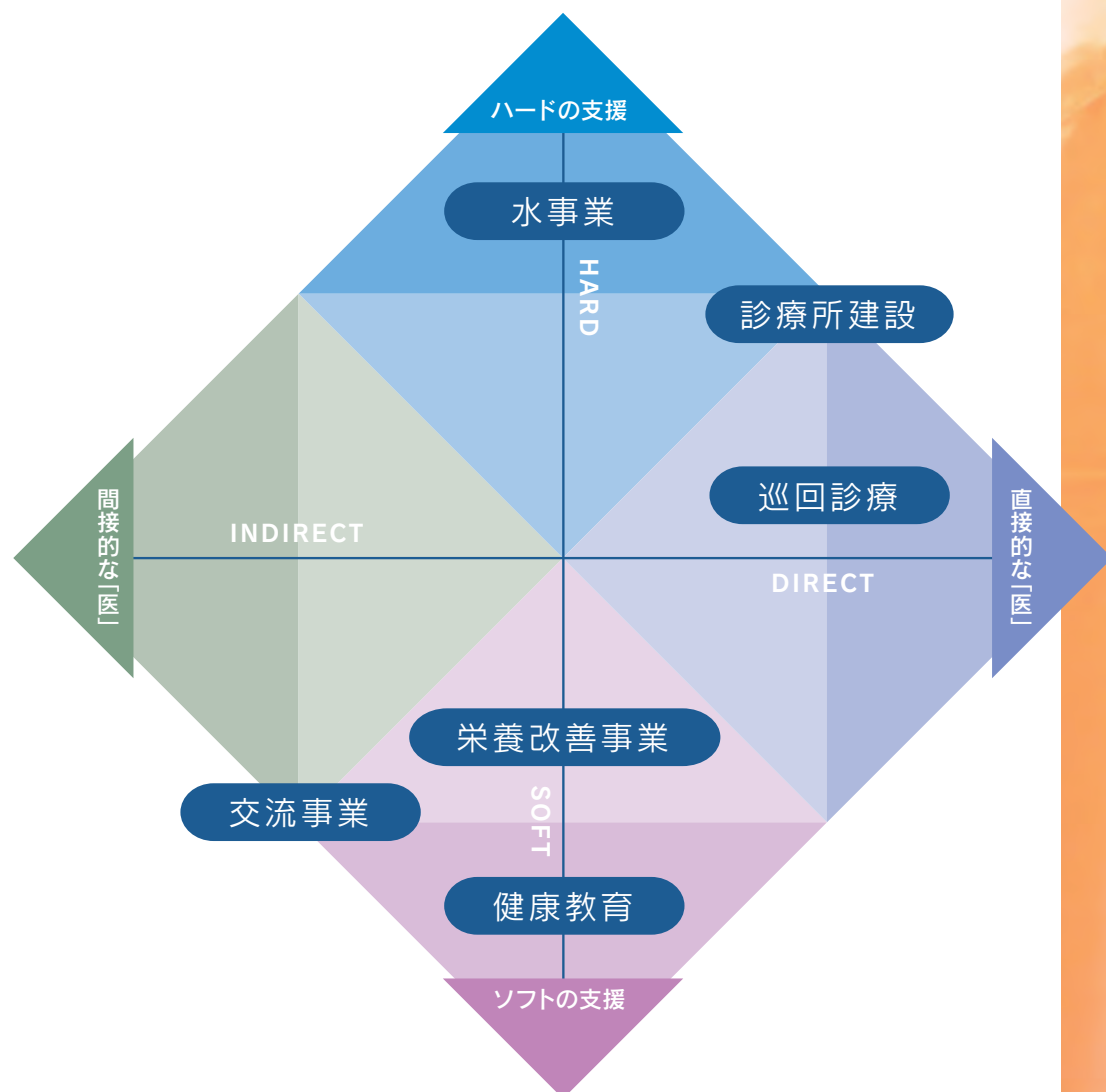
砂漠地帯を回って診察や予防接種を行う「巡回診療」や、いつでも診てもらえる診療所をつくる「診療所建設」は“直接的な”医療ですが、他にも、予防接種の重要性を伝える「健康教育」や、日本とスーダンの医療従事者をつなぐ「交流事業」も、“間接的”に人々を命を守ることにつながる“医療”だと捉えています。

また支援の方法も、教育や交流といったソフト面から、給水施設をつくる「水事業」のようなハード面まで多岐に及んでいます。

ロシナンテスはこのように様々な事業を、活動する地域に応じて組み合わせて実施しています。必要なものは、地域によって違うからです。

主役はあくまで、地域の人々。

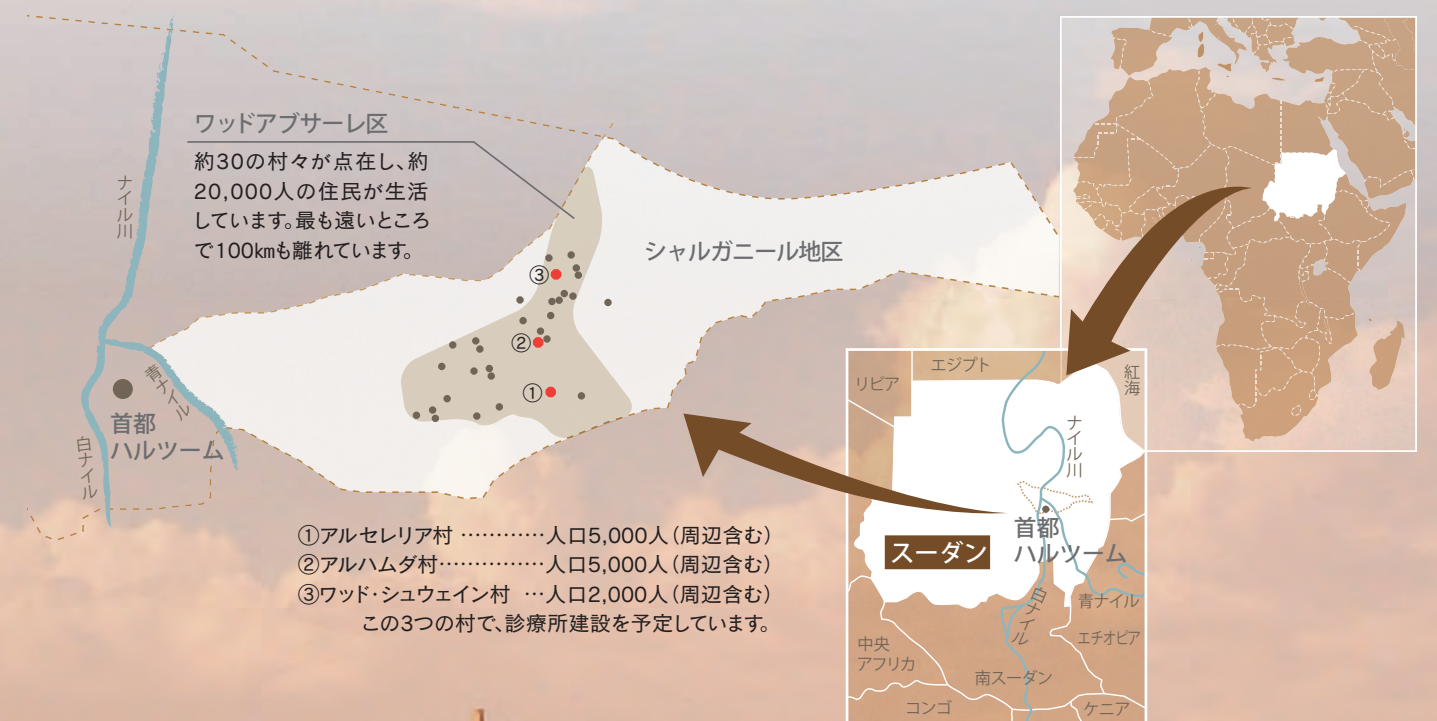
ロシナンテスは地域の発展のため、住民とともに歩み続けます。



19,184人

2016年に医療サービスを提供した延べ人数

医療がなければ、届けに行く。
これが、ロシナンテスの原点。



巡回診療

ロシナンテスの活動は、巡回診療からはじまりました。医療活動がおこなわれていない地域の人々を救う。その手段として私たちが選んだのは、車に医療器材を積み、砂漠を走って村々を回るこの方法だったのです。

当初、医療はもとより、病気の予防についての知識がない村人たちは、私たちを不審がりました。そのなかで、体調が悪いお年寄りを診察したり、妊婦さんの健康状態を確認したり、栄養状態が悪い子どもたちに処置を施したりしながら、少しずつ、地道に、信頼関係を築いていきました。巡回診療をはじめて11年。いまでは、どの村の人々も巡回診療を心待ちにしてくれています。

現在、活動しているのは、ハルツーム州ワッドアブサーレ

区内にある29の村々。毎月、約2週間をかけて村から村を移動します。

灼熱の砂漠を車で走る日々は過酷そのもの。使用するランドクルーザーが悲鳴をあげることもあれば、薬を保管するクーラーボックスの氷が解けてしまうこともあります。しかし、29ある村のうち、氷の調達や給油ができる村はわずか1村のみ。厳しい環境のなか、巡回診療をおこなうスタッフ9名は、力を合わせて医療に取り組んでいます。

巡回診療と同時にすすめてきた現地スタッフの育成が成果を発揮し、いまや現地の力なしに巡回診療はおこなえません。私たちの目標の一つである現地の人々による活動が、実現されようとしています。





「救えた命」を「救える命」に。
医療拠点があれば、それができる。

診療所建設

巡回診療で1つの村に滞在できるのは数時間。これでは、住民たちは安心して生活続けることはできません。

実際、悲しい出来事もありました。ある村で診察した8歳の男の子。肺炎が疑われたため、すぐに近隣の医療施設に入るように勧め、私たちは次の村へ移動しました。しかし少年の家族は、移動にかかる費用を捻出することができなかった。そのため翌月には、少年は亡くなっていたのです。巡回診療の限界を痛感しました。彼らにとっての近隣とは、口バで行ける範囲。この範囲に医療施設が必要なのです。

いまこそ、診療所を建てるべき。

そう判断した私たちは、スーダン保健省と交渉。何度も話し合いを重ね、アルセレリア村、アルハムダ村、ワッド・シュウエイ村に診療所を建てることになりました。建築方法は、土とレンガ。そして何より大切な建設資金は、日本のみなさまからの支援が頼りです。そこで、「土とレンガの診療所プロジェクト」として支援をお願いしました。その結果、アルセレリア村とアルハムダ村に診療所を建てることのできた



のです。残すは、ワッド・シュウエイ村のみ。3カ所の診療所が完成すれば、飛躍的に医療環境が改善されます。「救えた命」を「救える命」に変えるため、診療所建設を引き続きすすめていきます。

安全な水と栄養。
命を守る最低限を確保する。

水事業 栄養改善事業

私たちの目的は、命を守ること。そのために、安全な水の確保は欠かせません。しかし、アフリカ諸国では安全な水の供給が難しい現状にあります。もちろん、スーダンでも同様です。

診療所を建てたアルセレリア村では古井戸が壊れているため、遠くまで水を汲みに行ったり、ため池の水をそのまま飲んだりしています。それが原因で感染症にかかるケースも多数あり、水問題の解決は急務です。もちろん診療所で使う水也没有ありません。

そこで、まずはアルセレリア村の古井戸改修に着手しています。地域の飲用水だけでなく、診療所でも使用できるよう環境を整えていきます。

もう一つ、命を守るために欠かせないものは、栄養です。「北コルドファン州の子どもたちは栄養状態が悪い」とする



国連WFP(国際連合世界食糧計画)からの報告を受け、2015年からこの地域の子どもたちや妊産婦、授乳婦に栄養補助をおこなっています。これは、WFPとスーダン国内のNGO「SIDO」と共同ですすめているもの。始動から3年目を迎え、地域の協力も得ながら活動しています。



巡回診療

現在、巡回診療チームは、ロシナンテスのカウンターパートであるシャルガニール保健局の9人（リーダー・メディカルアシスタント・検査技師・助産師・栄養士2名・ワクチン接種担当・医療統計担当・運転手）で構成しています。

村では診療のほか、産前産後健診や健康促進デー等を実施。健康促進デーは、村人がほぼ全員参加。健康についての講義後、おさらいを兼ねたクイズ大会を開催し、村単位での恒例イベントになっています。

予防接種は実際の接種に加え、子どもの予防接種を拒む保護者に説明をおこない、接種率向上にも努めています。

村落助産師、助産師研修では、藤田和佳子先生をお呼びして、ケアの質改善をおこないました。引き続き日本との連携

を深めながら母子保健や助産師の研修を実施していきます。

今後は、最も重要である現地の人材育成にも力を入れ、スーダン人への教育をすすめながら、現地のさらなる発展をめざします。

■ 患者総数	2,082 人
■ 検査実施数	1,306 回
■ ワクチン接種数	4,154 回
■ 栄養状態の検査実施数	8,822 回
■ 妊産婦健診数	2,266 人
■ 産後健診数	554 人
■ 出産数	529 人



巡回診療スタッフ



ワクチンなど必要な物資を積み、砂漠を駆け回ります

診療所建設

「土とレンガの診療所プロジェクト」に多くのご賛同をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、目標としていた3,000万円の資金が集まりました。

現在、アルセレリア村とアルハムダ村の診療所が完成しています。アルセレリア診療所のスタッフは、ハルツーム保健省や巡回診療チームで研修を受け、診療を開始しています。まだ運営に課題が残りますが、今後は巡回診療と診療所の連携を図っていきます。

アルハムダ村の診療所は、アルセレリア村と同様に診察室、処置室、検査室、薬局、ワクチン接種室、それに病室となる6部屋で構成される予定です。この診療所

で働きたい地域住民のリストがハルツーム州保健省に提出されています。彼らは研修を経て、仕事に従事することになります。使用する医療機器や発電機などは、州保健省と話し合い、設置していきます。

今後は、ワッド・シュウェイン村に3棟目となる診療所の建設をおこないます。住民が診療所で働けるよう、研修はハルツーム州保健省がすすめていきます。

目標は、ハルツーム州保健省と地域住民が主体となって、診療所を中心とした地域医療を実践することです。今後は巡回診療と3つの診療所が協力しながら、目標の実現に向かっていきます。



支援者様のお名前を日本語とアラビア語で刻みました



現在、1棟目の診療所の運営が始まっています

水事業

昨年度から実施している「アルセレリア村での古井戸の改修工事」は、2017年中の完成を目指して現在進行中です。巡回診療地域でもあるこのアルセレリア村では、井戸が故障していて、住民たちは隣村まで水を汲みに行く必要がありました。加えてこの地には、「土とレンガの診療所プロジェクト」で建設した診療所があります。工事が完了すれば、約3,000人に安全で清潔な水を供給することができます。本プロジェクトは、スーダン赤新月社やスーダン政府など多くの関係機関と調整・情報共有を図っています。

同じく巡回診療地域であるワッド・

シュウェイン村では、井戸、給水所およびトイレの設置とヘルスプロモーションの実施に向けた事業計画策定と資金調達をおこないました。井戸と給水所の設置に関しては、TOTO水環境基金からの助成、トイレの設置に関しては、公益財団法人テルモ生命科学芸術財団からの助成が決定。今年度から関係各所への調整がスタートし、来年度までに井戸、給水所およびトイレの設置が完了する予定です。これによりワッド・シュウェイン村では、「土とレンガの診療所プロジェクト」による診療所建設も含め、多方面から総合的な地域開発をすすめていくこととなります。



地下水を汲み上げるために必要な発電機を設置



実際に水が出るかどうか試験を行いました

栄養改善事業

北コルドファン州のオムダム・ハージ・アハメド地域を対象とした栄養補助事業です。栄養不良の対策が最も必要な5歳以下の子どもや妊婦、授乳婦を対象に、7か所ある地域の診療所でおこなっています。

対象者には、連邦保健省の基準に基づき栄養不良の有無を判断します。もし栄養不良があれば、栄養補助剤を渡し、フォロー・アップのために定期的な受診を指示します。その結果、これまで90%以上の例で栄養不良からの脱出が認められました。再び栄養不良に陥ったケースは数例しかなく、良好な成績を残しています。2016年度は、5歳以下の乳幼児2,637名に対して、妊産婦、授乳婦667名に対して、フォロー・アップ、栄養補助をおこなっています。

栄養の意識向上をめざしたワークショップも開催しています。次の栄養不良を生まないためにも、知識を広める活動は重要です。ボランティアの育成も図りながら、地域とロシナンテス、関係機関で相互協力を図っています。

WFPおよびSIDOとの契約は2017年6月で切れますが、北コルドファン州での栄養事業ニーズは大きく、WFPを含めた関係機関からは事業の継続を強く要請されています。

- 5歳以下の乳幼児 2,637名に対してフォローアップ、栄養補助
- 妊産婦・授乳婦 667名に対してフォローアップ、栄養補助

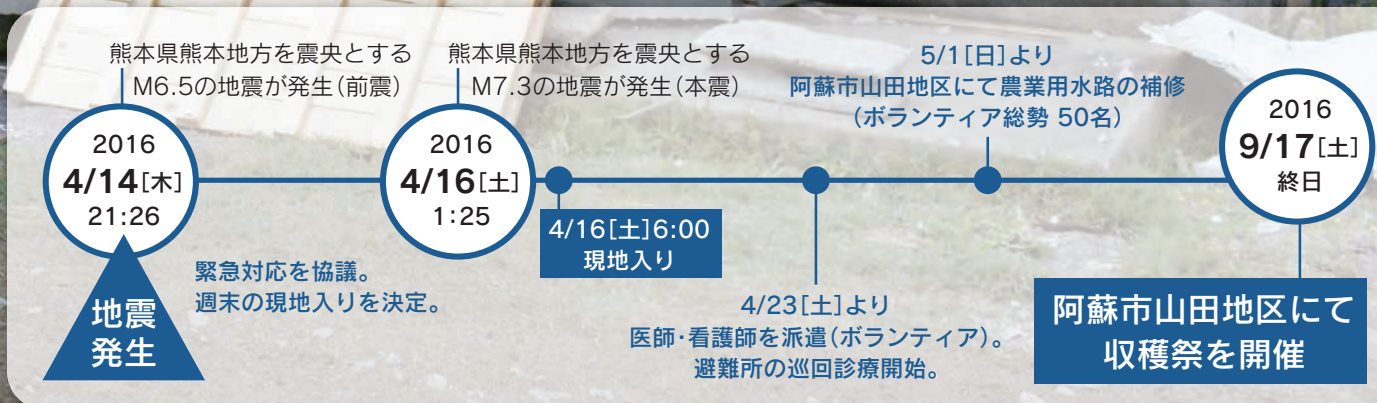


乳幼児の腕の太さを測ることで健康状態を確認します



現地のパートナーとロシナンテスのスタッフ

現場の声が、私たちの道しるべ。
ともに手を取り合い、前へ。





4月16日。後に本震と呼ばれる地震が発生した日、私たちは熊本へ向かいました。自分たちの目で現場の状況を確かめるためです。

強い揺れで陥没した道、隆起した橋、止まったままの信号。車で走ることすらままならない状況に、情報収集は難航します。そんな中、ある協力者から「阿蘇市が困っている」との一報を受けました。普段は水も空気も澄んでおり、ゆったりとした自然が広がる阿蘇市。しかし、この時は多くの住民が避難所に集まっており、緊迫した空気が流れていました。そこで私たちは自分たちの強みである“医療”を活かし、避難所での巡回診療を行始めました。巡回したのは医師2名と看護師2名。全員が全国から駆けつけたボランティアスタッフでした。

私たちが担当していた避難所は高齢の方が多かったため、血圧を測ったり、体を動かすためのストレッチなどを行いながら診療を続けました。診療中に地元の方々からお話を聞いていると、更に新しい情報が入ってきました。それは「田んぼの水路にヒビが入って田植えができない」という悲痛な声でした。

阿蘇市は農家が多く、豊かな湧き水に育まれたお米には有名なものが数多くあります。米農家にとって、「田植えができない」は1年を棒に振ることを意味します。生活再建のためには、仕事が必要です。そこで私たちは全国からボランティアを集め、ヒビ割れた水路の補修を行いました。

学生、社会人、看護師。年齢も性別も、職業もバラバラな人が集まって行った水路補修。最初はみな緊張していた様



子でしたが、次第に会話が生まれました。200箇所以上あったヒビは、総勢120名のボランティアスタッフによる手作業で、一日ですべて補修できました。地元の方々も大変喜んでくださり、地域の垣根を超えた関係を築くことのできた一日となりました。

それから半年後、水路補修でお世話になった農家さんから連絡が。

「お米が立派に育ったので、みんなで一緒にこの収穫をお祝いしましょう」という嬉しいお誘いです。水路補修によって整備された田んぼで、大きな稲がたくさん育っていました。まるで、熊本の人たちの心の強さを表すかのような、真つすぐでたくましい稲穂でした。

「地震の時はボランティアさんの力に助けられたから」

と、地元のお母さん方が白く輝く新米を握っておにぎりをつくってくださいました。最高のおもてなしです。「毎日泣いて過ごしていた」と話していた地元の方の心からの笑顔も、このご縁がなければ見ることはできませんでした。

「熊本のためになにかしたい」と全国から集まったボランティアの皆さま。そして力強く前を向こうとしていた地元の方々。復活の叶った阿蘇のお米はみんなの想いの結晶でした。

「ともに手を取り合い、前へ。」

これからもロシナンテスは、手を取り合い、前へ進んでいきます。



事務局 活動報告

国内でもさまざまな新しい活動を行いました。

活動報告会

PHOTO>>>1.2

「支援者の皆さまにお会いして活動をご報告し、感謝を伝えたい」

この想いから、2016年度より主催イベント「活動報告会」を開催しています。2016年の秋(2016/11/26)と2017年の冬(2017/2/18)の2回、福岡県北九州市にて行い、あわせて150名を超える方々にご参加いただきました。秋には、インターン生がスーダンでの活動と熊本での復興支援活動をご報告しました。そして、スーダンと会場をSkype(インターネットによるテレビ電話)でつなぎ、ハルツームから川原が活動報告を行いました。冬には、川原が帰国して登壇しました。

活動報告会では、「活動を身近に感じた」との感想を毎回いただきます。2017年度からは東京でも開催しておりますので、ぜひ会場にお越しください。皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

インターンシップ制度

PHOTO>>>3.4

NPOにおいて、広報活動は活動のご報告のために欠かすことのできないものですが、ロシナンテスはこれまで、スタッフ不足等の問題で十分に力を注げない状況が続いていました。この問題を解決するため、日本事務局ではインターンシップ制度の導入を以前より検討していました。

2016年7月、ある2名の大学生との出会いをきっかけにインターン生の受け入れを開始しました。インターン生は広報担当として、ロシナンテス初のメールマガジンの発行に始まり、会報「遠回り」等の広報物の制作に携わりました。また、熊本での復興支援活動においては、担当となったインターン生が現地でも活動を行いました。2回の活動報告会の開催にあたって企画の段階から主体的に携わり、登壇して活動のご報告もさせていただきました。

2016年度に事務局で受け入れたインターン生は8名。2016年度の事務局は彼ら/彼女らを抜きにしては語れないほど、全員が大活躍してくれました。

クラウドファンディング

PHOTO>>>5

2015年12月より開始した「土とレンガの診療所プロジェクト」の一環として、2棟目の診療所建設に必要な資金調達を目的とするクラウドファンディングに挑戦しました。多くの皆さまのご協力により、最初の目標であった「10,000,000円」を期限の1ヶ月前に達成することができました。その後は3棟目の診療所建設費用を加えた額を目標として再設定し、最終的には国内で実施された国際協力分野におけるクラウドファンディング史上、最高額となる14,316,000円を達成することができました。診療所は無事完成し、日本の皆さまの「想い」がカタチになりました。長く地元住民に愛される診療所となることと思います。(関連記事:P9 スーダン事業部2016年度の活動報告>診療所建設)

地元企業からの支援

PHOTO>>>6

地方に拠点を置くNPOにとって、東京への移動にかかる交通費は大きな負担の一つです。ロシナンテスは事業を実施するため、東京にある外務省や大使館等を頻繁に訪問する必要があり、その際の経費負担にいつも頭を悩ませてきました。

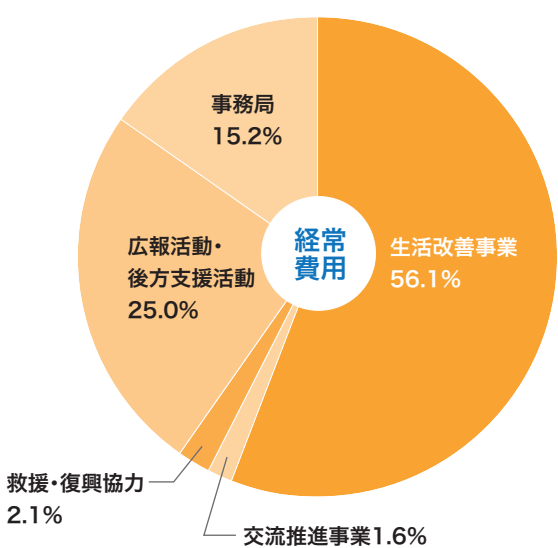
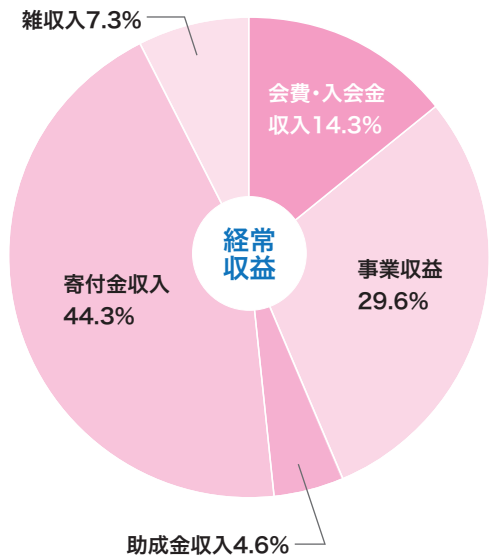
そこへ、福岡県北九州市に本社のある航空会社「株式会社スターフライヤー」様より、輸送協力のお申し出をいただきました。早朝から深夜まで北九州-羽田線を1日11往復運航するスターフライヤー様から、スタッフの移動についてサポートをいただくことは、ロシナンテスが事業を伸展させるために不可欠な、日本国内の基盤拡充にとって、大きな後押しとなります。(2017年8月より輸送協力が始まっています)



活動計算書

(単位:円)

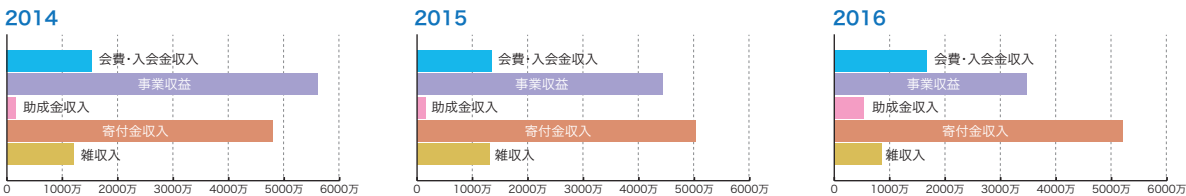
経常収益	①会費・入会金収入	16,751,923
	②事業収益(受託事業収入:JICAほか)	34,719,233
	③助成金収入(テルモ生命科学芸術財団ほか)	5,380,670
	④寄付金収入	51,980,876
	⑤雑収入(物品販売等)	8,610,649
	経常収益計(A)	117,443,351
経常費用	海外活動費	50,098,636
	①生活改善事業(保健医療事業、水衛生事業)	48,700,751
	②交流推進事業(人材交流事業)	1,397,885
	国内活動費	36,661,442
	③救援・復興協力事業(東北)	1,787,456
	④広報活動・後方支援活動	21,705,298
	⑤事務局	13,168,688
	経常費用計(B)	86,760,078
為替差益(C)		7,007,128
法人税(D)		81,000
当期正味財産増減額(A-B+C-D+E)		37,609,401
前期繰越正味財産額		130,544,490
次期繰越正味財産額		168,153,891



収益推移

(単位:円)

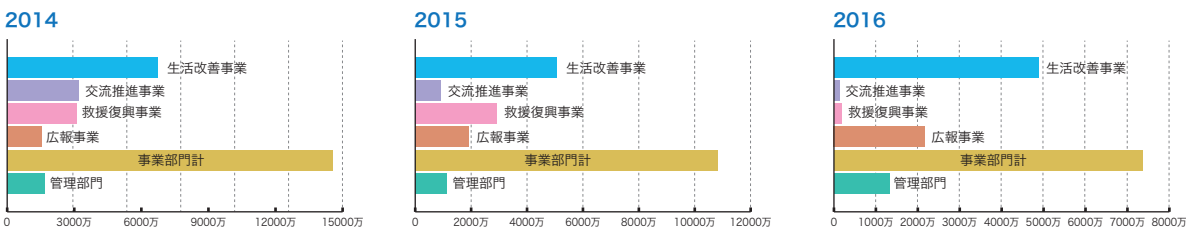
収 益	2 0 1 4	2 0 1 5	2 0 1 6
会費・入会金収入	15,356,057	13,895,500	16,751,923
事業収益(受託事業収入:JICA他)	56,076,693	44,179,776	34,719,233
助成金収入(テルモ生命科学芸術財団ほか)	1,500,000	1,447,982	5,380,670
寄付金収入	47,901,871	50,181,738	51,980,876
雑収入	12,048,980	13,021,656	8,610,649
合 計	132,883,601	122,726,652	117,443,351



費用推移

(単位:円)

収 益	2 0 1 4	2 0 1 5	2 0 1 6
生活改善事業	67,409,585	50,680,882	48,700,751
交流推進事業	31,907,665	9,071,643	1,397,885
救援復興事業	30,946,445	29,184,559	1,787,456
広報事業	15,475,658	19,302,268	21,705,298
事業部門計	145,739,353	108,239,352	73,591,390
管理部門	16,546,983	11,424,793	13,168,688
合 計	162,286,336	119,664,145	86,760,078



正味財産推移

2013年度決算 正味財産額	2014年度増減額	2015年度増減額	2016年度増減額	2016年度決算 正味財産額
151,566,887	-28,315,259	7,292,862	37,609,401	168,153,891

組織体制

役員一覧

理事長	川原 尚行
副理事長	竹中 賢治

理事	片山 憲一
理事	高山 義浩
理事	武藤 義博
理事	海原 六郎
理事	星野 賢一郎
監事	樋上 弥寿子
監事	神尾 康生

組織概要

名称	特定非営利活動法人ロシナンテス
略称	認定NPO法人ロシナンテス
設立	2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)
事務局所在地	〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号 北九州市立商工貿易会館7階

メディア紹介一覧

新聞
毎日新聞 (4/13)「スーダンで医療支援ロシナンテス 診療所1棟が完成」クラウドファンディング紹介／ 読売新聞 (4/27)「熊本地震 民間団体も支援の動き」／ 西日本新聞 (5/2) 阿蘇市での用水路補修ボランティア活動／ 西日本新聞 ((5/26) もの知りタイムズ内「東北支援 ありがとう さようなら」(こども記者だより)／ 朝日新聞 (11/9)「スーダン無医村に診療所」活動報告会告知／ 毎日新聞 (11/29)「NPOロシナンテス10年 スーダンや被災地支援 近況を報告」活動報告会／ 読売新聞 (12/7)「スーダンで医療支援 10年 ロシナンテス「多くの人救いたい」／ 毎日新聞 (17/3/7)「現地診療所建設に意欲 ロシナンテス活動報告会」

テレビ
KBC (4/21) アサデス。KBC Readyfor紹介／ TV東京 (5/11) NEWSアンサー 熊本での活動紹介／ RKB (6/12) ニュース枠 下関での川原理事長講演と「土とレンガの診療所プロジェクト」紹介／ NHK北九州 (6/20) ニュースブリッジ北九州 「土とレンガの診療所プロジェクト」紹介／ NHK WORLD (10/18)「Direct Talk」川原理事長インタビュー(英語吹き替え)／ NHK北九州 (17/2/13) ニュースブリッジ北九州「土とレンガの診療所プロジェクト」現状報告と展望

ラジオ
FM福岡 (4/22) モーニングジャム 熊本地震の状況報告(海原六郎理事電話出演)／ KBCラジオ (4/25) ガブリナ 熊本地震の活動報告(海原六郎理事出演)／ FM KITAQ (5/12) Hop Step KITAQ ロシナンテスの活動紹介(川原理事長、中川美代子出演)／ CROSS FM (5/29) Today's V.I.P. ロシナンテスの活動紹介／ KBCラジオ (10/31) 川上政行 朝からしゃべりずき! ロシナンテスの活動紹介、インターン募集／ FM福岡 (10/31) モーニングジャム ロシナンテスの活動紹介、インターン募集／ FM福岡 (12/26) モーニングジャム インターン活動紹介(大庭亜美出演)

講演会・イベント実績

講演会 川原尚行
(4/9)北九州予備校入学式 (5/26)日本麻酔科学会第63回学術集会(福岡市) (5/29)公益財団法人古岡奨学会「奨学生の集い」(東京都) (6/12)第99回山口県医学会総会(下関市医師会) (6/14)一般社団法人日本医療機器産業連合会(東京都) (7/11)ラグビー トークライブ2016(日本ラグビー選手会会長・廣瀬俊朗氏との対談:東京都) (7/14) 第71回日本消化器外科学会総会「発展途上国やへき地における医療支援」(吉岡秀人氏、平島修氏、山脇由紀子氏、ゲスト・さだまさし氏の5名による講演:徳島県) (9/9)石巻赤十字病院 (10/13)北九州市立大学『地域の達人』(10/20)名瀬徳洲会病院(鹿児島) (11/1)東京北ロータリークラブ卓話 (11/2)東京慈恵医科大学学園祭 (11/3)東京慈恵医科大学・公益財団法人生存科学研究所 (11/5)北九州市立守恒中学校 (11/6)北九州予備校沖縄校 (11/9)群馬大学 (11/11)コスメイト文化公演(公益財団法人行橋市文化振興公社) (11/12)長与町国際交流協会(長崎県) (11/15)長崎大学医学部 医学展(さだまさし氏、柴田紘一郎氏との鼎談) (11/16)福岡ロータリークラブ卓話 (17/1/7)国連フォーラムネットワークカンファレンス(東京都) (17/2/21)福岡県立小倉高等学校 (17/2/21)「アフリカの医療について考えたこと」(認定NPO法人HANDS、ほちぼちの会との共催:大阪) (17/2/22)ゴールドマン・サックス(東京都)

大嶋一馬
(4/17)東国東地域介護支援専門員連絡協議会(大分県) (7/22) 福岡県私設病院協会看護学校 (8/6) 国際ロータリー第2770地区奉仕プロジェクト部門(埼玉県) (11/12)九大薬友会福岡支部(よか薬会) (12/16)横浜市立神大寺小学校 (17/2/23)株式会社丸山運送(宮城県)

海原六郎
(12/3)北九州市立穴生中学校 (12/7)鹿児島県立薩南工業高校

広報イベント
(4/10)第二弾!『土とレンガの診療所プロジェクト』イベント@北九州 (11/26)活動報告会2016秋(北九州市立商工貿易会館) (17/2/18)活動報告会2017冬(北九州市立商工貿易会館) (17/3/31)インターン活動報告会～Youは何しにロシナンテスへ!?～

終わりに

いつもロシナンテスをご支援くださり、誠にありがとうございます。

皆さまのおかげで、スーダンでの事業(巡回診療、診療所建設、水、栄養改善など)を今年度も継続することができました。また熊本で発生した地震災害に対しての支援事業も行えました。

これらの事業を支えてくださっているお一人お一人に心より御礼申し上げます。

スーダン事務所では、現地副代表として渡邊周介が加入してくれました。また20代の田才諒哉も加わり、20代30代の若い力によって、現地での活動はより充実したものになってきています。スーダン政府の取り決めにより、国際NGOの事業は、スーダン国内の団体・機関との協力が不可欠ですが、巡回診療や診療所建設事業において我々のカウンターパートであるハルツーム州保健省から、多大なる貢献のあった国際NGOとして当団体が表彰されました。うまくいくことばかりではありませんが、現地機関との協力関係を維持・発展させ、今後もスーダンの地域住民のために事業を行って参ります。

隣国の南スーダンの混乱がありますが、スーダンの治安は、比較的良い状態に保たれています。今後もスーダンに「医」を届けるように挑戦し続け、それが当地域での平和の定着につながっていくことを願っています。

2016年4月に、星野賢一郎が事務局長に就任しました。海原六郎、大嶋一馬に続き、日本事務局の責任者を務めます。海原は法人設立後の大変な時期に、大嶋は東北での復興事業に力を発揮してくれました。星野は、私に持ち得ない冷静な判断力で、組織の能力向上に努めています。

当団体は認定NPO法人として所轄庁より認証を受けていますが、2016年はその更新の年でした。所轄庁による厳しい審査がありましたが、日本事務局スタッフの対応により、無事に認定を更新することができました(2021年12月まで)。これにより当団体への寄付は、引き続き寄付金控除等の税の優遇措置の対象となります。

スタッフ一同、事業推進に誠心誠意努力して参りますので、今度ともロシナンテスのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ロシナンテス理事長 兼
スーダン現地代表

川原尚行

ロシナンテスは皆様の継続的なご支援を求めています。

ロシナンテスの名前の由来でもある「小さな力(ロシナンテ)」がたくさん集まれば、大きな何かができる。私たちはそう信じて、歩み続けます。

継続的に寄付をする (毎月・毎年の定額寄付で長期的な活動ができます)

クレジットカード  ▶ 1,000円から ▶ ロシナンテスのホームページからお手続きください。

銀行口座自動振替 ▶ 1,000円から ▶ 所定の申込用紙を送付させていただきますのでロシナンテス日本事務局までご連絡ください。

今回のみ寄付をする

クレジットカード  ▶ 1,000円から ▶ ロシナンテスのホームページからお手続きください。

郵便局 恐れ入りますが、払込手数料をご負担願います ▶ 郵便局備え付けの払込取扱票をご利用いただくか、下記の口座へお払い込みください。

口座記号: 01720-3 口座番号: 74330 店名: 一七九
加入者名: NPO法人ロシナンテス

銀行口座振込 恐れ入りますが、払込手数料をご負担願います ▶ 金融機関: 福岡銀行 三萩野支店(みはぎの)
預金種類: 普通
口座番号: 1733240
口座名義: 特定非営利活動法人ロシナンテス

ご注意 郵便局もしくは銀行口座へ振り込みされる方で、「領収書」をご希望の場合は必要項目を電話、FAXまたはメールでお知らせください。 必要項目 [①振り込み日 ②振込者情報(お名前、ご住所) ③振り込み金額]

ロシナンテスへのご寄付は、寄付金控除等の税の優遇措置を受けることができます。

例えば

個人で毎月1,000円クレジットカードで寄付した場合、総寄付額は、1,000円×12か月=12,000円ですが、確定申告で税額控除の適用を受けることで(12,000円-2,000円)×40%=4,000円が還付されるため、
実質年間ご負担額は、8,000円(=12,000円-4,000円)となります。

※これらを受けるためにはロシナンテス発行の「領収書」が必要です。

個人からのご寄付の場合

個人所得税の寄付金控除について

個人が各年において支出した認定NPO法人に対する寄付金で、その寄付額が2,000円を超える場合には、確定申告の際に所得税の寄付金控除として「税額控除」または「所得控除」のいずれかが選択適用できます。
※年間寄付額や所得税率などによって有利な選択が異なります。詳しくは税務署等にご確認ください。

個人住民税(地方税)の寄付金控除について

寄付者がお住まいの都道府県または市区町村が条例で指定した認定NPO法人等に寄付した場合に適用されます。
※お住まいの都道府県または市区町村にご確認ください。

 寄付者《個人》

認定
NPO法人

寄付金額-2,000円 ▶

寄付金控除
(所得控除または税額控除)

法人からのご寄付の場合

一般のNPO法人等に寄付した場合の「一般損金算入限度額」とは別枠の「特別損金算入限度額」が適用されます。なお、寄付総額が「特別損金算入限度額」を超える場合には、その超える部分の金額を「一般損金算入限度額」に算入することができます。

寄付者《法人》

認定
NPO法人

一般の寄付金に係る損金算入限度額
+
認定NPO法人等に対する寄付金に係る損金算入限度額